

施策評価シート(平成21年度の振り返り、総括)

作成日 平成 22 年 7 月 21 日

施策No.	36	施策名	芸術の薫るまちづくり		
主管課名	観光商工課	主管課長名	真庭 敏		
関係課名	教育課				

施策の目的 【対象】	対象指標名	単位	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
			実績	実績	実績	実績	見込み	見込み
①町民 ②観光客	町民(外国人含)	人	24,250	23,809	23,305	22,924	22,591	
	観光客	人	3,850,066	3,689,183	3,713,752	3,600,664	3,689,000	3,689,000

施策の目的 【意図】	成果指標名	単位	18年度	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度
			実績	実績	実績	実績	目標	目標
町の中で町民や観光客が芸術にふれることができるようにする	①日頃から芸術に親しんでいる町民の割合	%			16.8	17.8		
	②芸術の薫るまちだと思える町民の割合	%			16.9	16.8		
	③東京芸大寄贈の作品に触れることのできる場所の数	箇所				24		
成果指標の把握方法と算定式等	④東京芸大寄贈の作品数(累計)	作品	12	55	75	112	126	
	①②町民アンケート ③④芸術作品は町内にも数多くあるが、ここでは観光振興の手段として取り組んでいる東京芸大の寄贈を主に指標として取り扱う。							

成果指標設定の考え方	<p>①芸術に親しんでいる町民の割合が高ければ、芸術が薫るまち作りができています。</p> <p>②芸術の薫るまちだと思える町民の割合が高ければ、成果が向上したと考えられる。</p> <p>③東京芸大の寄贈作品にふれる場所が多くなれば、町民及び観光客に芸術に触れる機会を提供できたと考える。</p> <p>④東京芸大寄贈の作品が増えることにより、より多くの町民及び観光客に芸術に触れる機会を増やすことができると考える。</p>
------------	---

施策成果向上にむけた住民と行政との役割分担	<p>1) 住民の役割 (住民が自助でやるべきこと、地域やコミュニティが共助でやるべきこと、行政と協働でやるべきこと)</p> <p>①町内の芸術に親しんでもらう。 ②芸術のまちづくり実行委員会が開催するワークショップに積極的に参加してもらう。 ③寄贈作品の展示場所の提供</p> <p>2) 行政の役割 (町がやるべきこと、県がやるべきこと、国がやるべきこと)</p> <p>&lt;町&gt; ①芸術のまちづくり実行委員会活動を関係機関と協力して推進する。 ②東京芸術大学から作品を寄贈してもらう。 ③芸術の薫るまちづくりの啓発。</p> <p>&lt;県・国&gt; ①寄贈作品の展示場所の提供。</p>
-----------------------	---

21年度の 評価結果	<p><b>1. 施策の成果水準とその背景・要因</b></p> <p>1) 現状の成果水準と時系列比較（現状の水準は？以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は？）</p> <p>①日頃から芸術に親しんでいる町民の割合はH20年度が16.8%、H21年度が17.8%となっており、低い水準で推移している。この要因は、町内に芸術に触れる機会や施設が少ないところに起因していると考えられる。</p> <p>②芸術の薫るまちだと思える町民の割合は、H20年度が16.9%で、H21年度は16.8%と低水準で推移している。</p> <p>③東京芸大寄贈の作品に触れることのできる場所の数は、H18年度の3箇所から年々増加し、H21年度には19カ所となっている。町の施設だけでなく、旅館、警察署等、展示場所を提供してくれる団体等が増えてきている。</p> <p>④東京芸大寄贈の作品数は、H18年の12点からH21年の126点となり確実にその作品数を伸ばしている。また、作品の寄贈者の中には近年作品が評価されてきた作者も出てきた。</p> <p>2) 他団体との比較（近隣市町、県・国の平均と比べて成果水準は高いのか低いのか、その背景・要因は？）</p> <p>①東京芸術大学の卒業作品の寄贈事業は本町のみ取り組みであり、他団体との比較はできない。なお、取手市（東京芸大取手校舎あり）と台東区（東京芸大本校舎あり）は卒業作品を買い取る事業を行っている。</p> <p>3) 住民の期待水準との比較（住民の期待よりも高い水準なのか 同程度なのか、低いのか）、その他の特徴は？</p> <p>①芸術の薫るまちだと思える町民の割合の低さからも伺えるが、期待水準は高くはないが、熱心に取り組んでいる団体や町民もあり、今後の活動によっては、期待水準の向上が見込まれる。</p>
	<p><b>2. 施策の成果実績に対してのこれまでの主な取り組み(事務事業)の総括</b></p> <p>1) 東京芸術大学文化交流事業の中で、卒業生作品の収蔵事業や東京芸術大学への調査委託事業（図鑑作成等）を実施しており、寄贈作品数を順調にのばしている。また、これらの事業を町内に周知したことにより、展示協力者が増えてきている。</p> <p>2) 東京芸術大学文化交流補助事業では、ワークショップ等をおこない、徐々に町内参加者も増加するなど芸術の薫るまちづくりが町内に浸透しつつある。</p>
	<p><b>3. 施策の課題認識と改革改善の方向</b></p> <p>1) 東京芸大寄贈の作品に触れることのできる場所の数は年々増えてきている。また、東京芸大寄贈の作品数も増えてきているが、日頃から芸術に親しんでいる町民の割合や芸術の薫るまちだと思える町民の割合は依然低いままである。今後は、1. 町民に見てもらおう、2. 児童生徒に見てもらおう等の芸術に対する興味をもってもらおう活動を行うことが必要と考える。</p> <p>2) 今後、寄贈作品が年々増えて行くに従い、収蔵場所を確保していくことが必要。</p>